

観光案内人と行く ”不思議の森“ 中島台レクリエーションの森

国有林の中に広がるブナの原生林。手つかずの自然が色濃く残る森に入ると、空まで届きそうなブナの奇形木や小鳥のさえずりがひびきわたるせせらざきが皆さんを出迎えてくれます。

ここは、国の天然記念物に指定された「獅子ヶ鼻湿原」、日本一の奇形ブナ「あがりこ大王」など人々を惹きつける魅力いっぱい。「不思議の森」です。

「これから夏本番を迎えますが、日常の生活を忘れさせてくれる自然のクールビズを感じながらその魅力を観光案内人とともに探ってみませんか。」



ナビゲーター
伊藤 良明さん
(小砂川2区)

平成5年、きさかた観光案内人材バンク発足当初から案内人として活躍。17年から観光案内人協会会長を務めています。



あがりこ大王



燭台ブナ



炭焼窯

中島台に奇形ブナが多いわけ
ブナは燃料が石油に変わるまで、薪や炭の材料として不可欠でした。中島台のブナの木も、江戸時代末期から昭和30年ごろまで、炭焼きに使用されてきました。積雪の上から出た部分の幹を切って利用し、それを繰り返す



森の巨人「あがりこ大王」
「あがりこ」の呼び名は「芽が空に向かってあがる」ことに由来し、幹が上がったところの子に分かれ、雄々しい形から「あがりこ」と命名されました。あがりこ大王は、幹周りが7.62mもあり、奇形ブナとしては日本一の太さで、平成12年に林野庁の「森の巨人たち百選」に



ニンフ(森の妖精)の腰掛「燭台ブナ」
幹が横に大きく張り出したその姿から「燭台(ろうそく)を立てて火をとます台」ブナと呼ばれています。あがりこ大王に次



江戸時代の遺跡「炭焼窯」
先ほどの説明のとおり、奇形ブナがあるところには炭焼窯があります。ここ中島台には27の窯が発見されており、この散策コースでも3つを見ることができま

